

学校教育目標「故郷を愛し、未来を切り拓く力を備えた児童・生徒の育成」



養徳の森

令和5年10月20日(金)

学校だより 第6号

玉陵中学校長 松本 恒明

「大好き 玉陵」

「命」「人」「心」「物」を大事にする生徒に、そして、「自立貢献」

色あざやかな華たちが
咲き誇った文化祭！

～玉陵中に感動の波押し寄せる～

10月13日(金)、文化祭を開催しました。当日は、多くの保護者の方々及び学校運営協議会委員の方々にもご参観いただきました。ありがとうございました。

私はこの文化祭をととても楽しみにしていました。文化祭は、これまでの子どもたちの学びを表現する場です。表現の形は、文章でまとめたり、発表したり、合唱したり、演奏したり、制作したりと様々ですが、相手の心に届けるためには準備や工夫が大切となってきます。これまで子どもたちは準備や練習を一生懸命重ねてきました。その様子を見ながら、私は文化祭を心待ちにしていました。

いよいよ当日、私はオープニングから目を奪われました。そして、音楽部演奏では1年生の成長ぶりに驚き、意見発表「じぶんらしく生きる」では深く感銘を受けました。

「展示作品みどころ紹介」では、各代表が簡潔に分かりやすく紹介を行ってくれました。実際にどの展示作品も時間をかけて丁寧に制作したものばかりで、子どもたちの一生懸命さや工夫がよく伝わってきました。

狂言は、地域の方の協力で長期間練習を積み重ねてきており、ユーモアもあり、見る人を引き込むすばらしい内容でした。



各学年の発表は、どの学年も見ごたえがありました。1年「阿蘇で生まれた宝物」、2年「職場体験学習で学んだこと」、3年劇「Cross Road」、どれも見ている人にとって

かり伝えたい・届けたいという思いが詰まっていた。特に3年生の劇は、私たちに大きな感動を与えてくれました。



午後からは、合唱コンクールでした。やはり合唱は人の心を打ちますね。どの学級もこれまで練習に励み、子どもたちと担任の先生が1つとなって合唱をつくり上げてきた姿がよく出ていました。どの学級にも最優秀賞を贈りたい気持ちでいっぱいでした。

玉陵中文化祭を通して、私は「大好き 玉陵」の気持ちがさらに強くなりました。この文化祭を創り上げた全校生徒のみなさん、そして、支援していただいた先生方、ありがとうございました。



【玉名荒尾中体連駅伝競走大会】10月18日(木)

女子は5区間、男子は6区間、走る人も補助する人も必死に取り組む子どもたちの姿に心打たれました。当日の走りは、これまで練習を積み重ねてきた力強い見事な走りでした。お疲れさまでした。